

2013(H25)年4月に北海道日本海沿岸で発生した「ヌタ」について(続報)

2013(H25)年5月9日

道総研中央水産試験場資源管理部海洋環境G

・今春の北海道日本海沿岸において発生した「ヌタ」の原因藻は大型珪藻コスキノディスクス・ワイラシィ
(写真1, *Coscinodiscus wailesii*, 細胞の直径約0.2-0.3mm)
と考えられます。

・図1に2月下旬から5月上旬の余市前浜における「ヌタ」の原因藻の出現数の変化を示します。出現数は3月下旬から4月上旬にピークに達し、4月下旬まで増減しながら推移しましたが、5月上旬には急減しています。このことから、日本海沿岸における「ヌタ」の発生は今後終息に向かうものと推察されます。

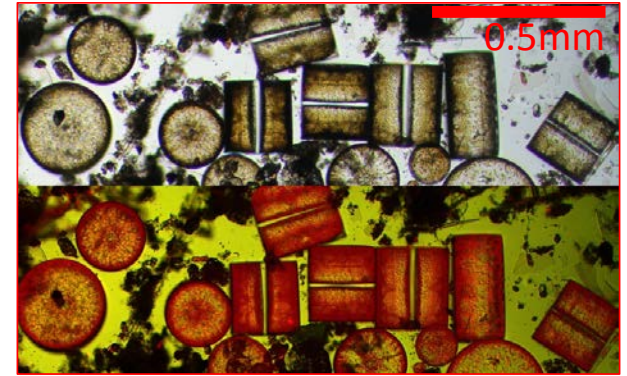


写真1 大型珪藻コスキノディスクス・ワイラシィ
(3月28日、余市)
上:明視野
下:蛍光(青色励起)、赤色は光合成色素

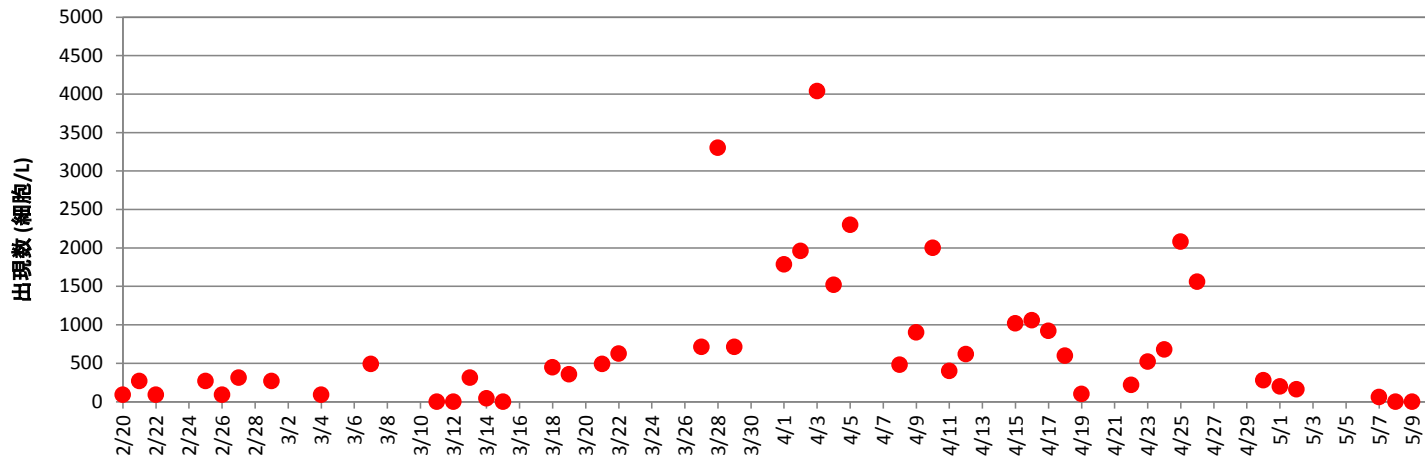


図1 2月下旬から5月上旬の余市前浜における大型珪藻コスキノディスクス・ワイラシィ出現数の変化

2013(H25)年4月に北海道日本海沿岸で発生している「ヌタ」について

2013(H25)年4月11日

道総研中央水産試験場資源管理部海洋環境G

- ・今回発生した「ヌタ」は珪藻の枯死細胞と珪藻由来の粘液に雪解け水や底泥等が混じったものと推察されます(写真1)。
- ・今春の日本海沿岸では大型珪藻コスキノディスクス・ワイラシイ(写真2, *Coscinodiscus wailesii*, 細胞の直径約0.2-0.3mm)が多く出現しており(3月下旬～4月上旬の余市前浜では海水1Lあたり千～5千細胞程度)、これらの枯死・沈降と雪解け水の流入が重なったため、「ヌタ」の発生につながったものと推察されます。
- ・今後の見通しとしては、本海域における珪藻の出現ピークは例年3～4月であるため、「ヌタ」の発生は4月中に終息するものと考えられます。しかしながら本年は積雪量が多いため、珪藻が消滅しても、雪解け水由来の海水の濁りが持続する可能性があります。

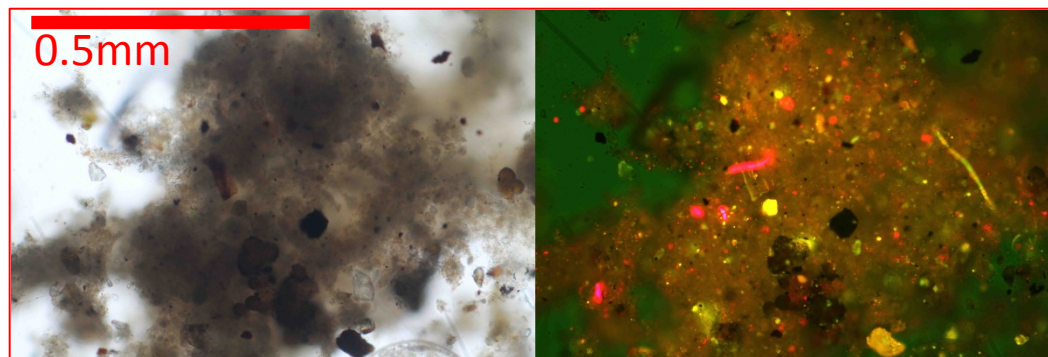


写真1 「ヌタ」の顕微鏡写真(4月8日、増毛)

左: 明視野

右: 蛍光(青色励起)

赤い点は珪藻由来の光合成色素(クロロフィル)

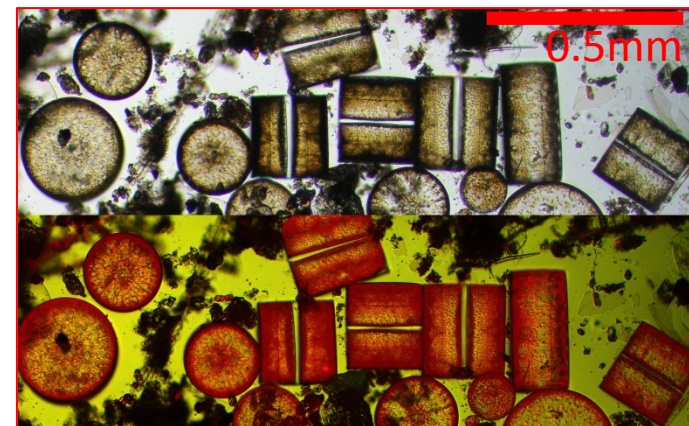


写真2 大型珪藻コスキノディスクス・ワイラシイ
(約4,000細胞/L、3月28日、余市)

上: 明視野

下: 蛍光(青色励起)、赤色は光合成色素